

70 NEWS

life with sTone
～ 石の温もりを、暮らしの中に～

新年明けましておめでとうございます。2022年も石文化の進歩発展に貢献できるよう、あらゆる視点から切り込んだHOTな情報を満載して皆様にお届けできるよう猛虎のごとく突き進みますので、本年もよろしく願い申し上げます。

TOPIC 1 検証シリーズ

へえ～、
そうだったの？



AKEMI® エバークリア510の変色テスト



エバークリア510

AKEMIエバークリア510は、屋外の使用において黄変せずにクリアな色を保持する商品として、石.NEWS vol.57で紹介した直後より多くの方からお問い合わせを頂き愛顧頂いております。

従来、石材の補修と言えばポリエステル樹脂系の補修剤が多く使用されています。作業性やコスト面からも扱いやすく、特に大理石の欠け・充填といった補修には欠くことができないと言われております。ただ、成分の特性上、紫外線などの影響は受けやすく、どうしても経年により色が黄色くなるなどの変色を起こしがちです。そこで今回は従来の商品とエバークリア510の経年による変化状況を比較検証してみました。

検証比較として、①ポリエステル樹脂系 ②エポキシアクリレート系 ③エポキシ樹脂系 ④エバークリア510とこの4種類を硬化させてそれぞれ約1年間放置してみました。

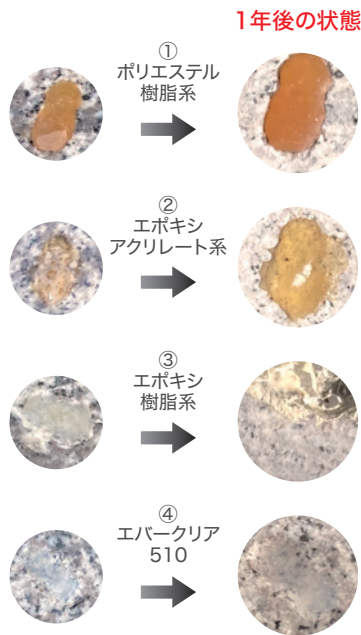
結果としてエバークリア510以外は、基剤自体の黄色味が経年で強まった感じや、乳白色が濁った感じに変色しています。しかしエバークリア510に関してはほとんど目視ではわからないほど変化が見られませんでした。

更にそれぞれを白色に着色した状態で同様に経年変化をみてみました。エバークリア510の特徴としては、基剤がクリアなため着色した色が非常にきれいにすることです。特に白色に関しては白色そのものがくっきり出するため、ピアノコなどの白系の補修には最適です。他の商品と比較すると着色直後の段階でも、明らかにエバークリア510の白色が際立っており、更に経年後にはその差が歴然としております。このような検証からも紫外線の影響を受けやすい屋外や、白系石材などへの使用が有効であることが分かります。

特に最近ではデザイン性を重視した施工が増えてきており、空目地など目地をいれない施工が増えてきました。デザイン性を重視する結果、水やほこりが目地部に入るなどの弊害も生まれてきております。

そこで経年により変色しにくく、着色可能なエバークリア510を目地部の充填に使用するのは如何でしょうか？ 目地施工であれば、混合手間が必要ないカートリッジタイプが便利です。特に外壁に大判タイルやテクノセラミックの使用も増えてきておりますので着色不要なカラーマッチング対応のエバークリア300は特にお勧めです。

着色しないまま硬化した場合



白色に着色した後で硬化した場合



空目地(目地を入れない施工)



エバークリア300

総評



今回の検証結果からもエバークリア510の経年による変色に対する耐久性がわかりました。しかし今回検証しましたポリエステル樹脂系・エポキシアクリレートやエポキシ樹脂系なども条件・環境・コストなど様々な観点から用途に応じて対応できますのでご不明な場合はお気軽にお問い合わせください。

TOPIC 2

セリ矢の使い方

石材を割る際には、昔から長年セリ矢が使用されています。最近ではお墓の解体などで、使用されることが増加し、当社へも数多くご注文頂いております。今回は、セリ矢の使用上の注意点に関してご説明いたします。

セリ矢は羽根2枚と矢1本の3点から構成されています。羽根がガイドとなりクサビ型の矢を叩き込むことで羽根が広がり石にあけた穴を押し広げることで、石を割る仕組みです。非常に簡単な仕組みではありますが、少し注意頂くことで作業性が改善されます。

注意点① 下穴は深く！

下穴が浅いと矢が深く入り込まず羽根が広がらないため割れにくくなります。羽根の長さではなく、矢の長さ以上に深く掘ってください。

注意点② 下穴のサイズは適正に！

セリ矢の指定サイズ以上の大きな下穴の場合はセリ矢効果が発揮できません。また小さすぎても矢が入りきらず石が割れにくくなりますので、セリ矢サイズと同じ寸法の下穴を穿孔してください。

セリ矢16mm
の場合

下穴は16mm

セリ矢20mm
の場合

下穴は20mm

注意点③ 羽根の向きは石を割る方向に！

割りたいと思う方向に羽根を向けてください。セリ矢を数か所に用いることで石を割りやすくなりますが、それぞれに羽根の向きが違っていると割れませんのでご注意ください。



また、矢と羽根が一体型になった作業性に優れたワンボディウェッジも、一体型のため作業性が良いと評判で弊社への注文も増えております。



ワンボディウェッジ

TOPIC 3

中国石材市場の状況

コロナの影響で様々なモノやサービスの値上げが続いています。この動きは当分の間続くと考えられます。特に石材市場では仕入先である中国の状況が変化してきています。

最近では中国政府の共同富裕政策により従業員の給与を上げざるを得ない状況となってきています。更に、一人っ子政策の結果、高齢化が日本以上に進み、工場労働者の人手不足が進み労働者の確保のために人件費が高騰しています。また、国内運賃の上昇だけでなく海上運賃が大幅上昇(2倍～3倍)となっています。これらのことを考えると中国材は、今後は上昇傾向にあると思われます。

国内においても、全ての商材が値上がり傾向です。特に石材専用の商品に関しては、市場の縮小の影響もあり、廃番商品や値上がりするものが増えてきています。

旧正月明けには、石材の価格も改正されるかと思いますが、先の受注に関しては販売価格の見直しが必要になるかと思われまます。中国の動きに注意したいと思っております。

藤栄株式会社

大阪本社 〒578-0944 大阪府東大阪市若江西新町4-5-25
東部営業所 〒327-0817 栃木県佐野市伊勢山町14-10

ウェブサイト
<http://touei.ne.jp>



フェイスブック
<https://www.facebook.com/touei.kenzai/>



商品についてのお問い合わせ・ご注文等は、お近くの石材工具販売店様までお問い合わせください。

TOUEI ドット ニュースは、メールでいち早く配信しております。配信をご希望の場合は、web@touei.ne.jp へ、メールの本文欄に会社名・お名前をご入力の上、送信ください。(右側のQRコードで、上記のメールが開きます)

